

主 題：あなたがたは代価を払って買い取られたのです

聖書箇所：コリント人への手紙第一 6章20節

テーマ：代価を払って買い取られた者の姿とその生き方

きょうは皆さんと一緒にIコリント6：20を学びますが、まず6章全体に目を留めてみたいと思います。パウロは6章の文中で、あることばを特徴的に繰り返し使っています。

### 1. 6章の二つのことば

#### ①「知らないのですか」

一つ目のことばは「知らないのですか」ということばです。このことばをパウロは2、3、9、15、16、19節で6回も繰り返し使っています。この「知らないのですか」は、こう言い換えることができます。「あなたがたは知っているでしょう」私たちも日常の会話の中で相手に対して「あなたは知らないのですか」と問うことがあります。同じようにパウロもコリントの人々に対して「あなたがたは知らないのですか」「あなたがたは知っているでしょ」と問いかけています。またギリシャ語の原文ではこの「知らないのですか」を意味することばが、文頭で用いられています。それは事柄の重要性を強調しているのです。私は新改訳の第二版の聖書を使っていますが、17年度版の聖書をお持ちの方は、この「知らないのですか」はギリシャ語原文と同じように文頭に置かれています。例えば6：9は17年度版の聖書では「あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。」と書かれているはずですが、第二版はまた違う文言の繋がりになっています。

#### ②「からだ」

二つ目のことばは「からだ」ということばです。12-20節の段落の中で、この「からだ」ということばは11回使われています。私たちが「からだ」と言うとき、それは多くは肉体を指して使いますが、ここでは単に外側の肉体を言っているのではなくて、私たちの内側、心や霊の部分を含めた私たち人間のすべてを言い表しています。

パウロはこの6章で、コリントの人々に対して重要な真理を思い起こさせています。それは彼らにも及んだキリストのみわざの真理です。その真理とは6：20「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」です。そしてこの真理は、今を生きる私たちにとっても非常に重要な真理であり、この真理こそ、すべてのクリスチャンに及んだ真理なのです。きょう私たちは20節の前半「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」を学びます。後半の「ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」は、また次の機会にご一緒に学びたいと思います。それでは19-20節をお読みします。

#### Iコリント6：19-20

「:19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。:20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。」

### 2. 6：19の2017年度版

先ほども言いましたが、17年度版の聖書はこう書かれています。19節「あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。」ここでパウロはコリントのクリスチャンたちに問いかけています。「あなたがたのうちにすでに聖霊が住まわれていることを、あなたがたは知らないのですか。あなた

がたのからだはもはや自分のものでないのを、あなたがたは知らないのですか。あなたがたはそのことを知っているでしょう。」と。

### 3. 「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです」

そしてその理由を20節で宣べています。日本語の聖書では少しわかりづらいのですが、20節はギリシャ語の原文では“ガル”という接続詞が使われています。この接続詞は「なぜなら」という意味を持っています。ですから20節はこう読むことができます。19節を受けて、「なぜならあなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」この20節でパウロが宣べている事柄こそ、コリントのクリスチャンたちだけではなく、私たちをも含めすべてのクリスチャンに及んだキリストのみわざの真理なのです。

20節「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」パウロのことばはこう言い換えることができます。「あなたがたはイエス・キリストによって贖われたのです。」パウロがコリントの人々に思い起こさせているのは、イエス・キリストによる贖いです。この「贖い」ということば、「代価を払って買い取る」また「身代金を払って身受けする」という意味を持っています。この「身受けする」という意味は「束縛されている状態また囚われの状態からの解放」を意味しています。マタイ20：28にはこう記されています。「人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」（参：マルコ10：45）私たちはこれから、パウロが教えるこの「贖い」の本質を見ていきたいと思えます。20節「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」

#### ① 「あなたがた」

「あなたがた」とはもちろんパウロが書いたこの手紙の受取人であるコリントのクリスチャンたちのことですが、広い意味では私たちをも含めたすべてのクリスチャンたちへの呼びかけでもあります。

#### ② 「代価を払って」

この「代価」ということばの意味を国語辞典で調べてみると「代金」とか「品物の値段」また「あることのために支払われなければならない犠牲や損害のこと」を代価というように記されてありました。私たちが日常生活の中で、何か必要な物、欲しい物を手に入れようとするときには、その品物の代金を払ってその品物を手に入れます。ですから「代価を払って」この行為の意味することはよく理解できます。

ではここでパウロが言っている「代価」とは何を意味しているのでしょうか。もちろんコリントのクリスチャンたちのために支払われた代価であり、私たちのためにも支払われた代価でもあります。それでは、コリントのクリスチャンたちの何のために、私たちの何のために支払われた代価なのでしょう。か？ペテロは1ペテロ2：24でこう言います。「そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。」ペテロは言うのです。「その代価とは、私たちの罪のために支払われたイエス・キリストのいのちだ。」と。イザヤ書53：5-6をお読みします。「:5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。:6 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、【主】は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。」ヘブルの著者もヘブル9：28aでこう宣べています。「キリストも、多くの人々の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、」またパウロはエペソ1：7で「この方にあつて私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」ローマ4：25aでは「主イエスは、私たちの罪のために（身代わりに）死に渡され、」と言います。主イエス・キリストは私たち罪人の罪のために、あの十字架の上でご自身のいのちを代価としてささげられたのです。「代価」それは、主イエス・キリストのいのちです。「キリス

トは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。」と I テモテ 2 : 6 でパウロは記しています。

さて皆さん、この代価はいつ私たちのために支払われたのでしょうか？いつイエス・キリストのいのちが私たちの代価としてささげられたのでしょうか？ローマ書 5 : 8 では「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」と書かれています。みことばが教えることは、私たちがまだ罪人であったとき、私たちが神に敵対していたとき、私たちが「あなたは必要ありません」と言っていたとき、主イエス・キリストはみずから私たちを贖うために十字架にかかれた、ということです。ご自身のいのちを代価として支払われたのです。皆さん、何という神の御計画なのでしょう。

### ③「買い取られたのです」

そして「代価を払って買い取られたのです。」と書かれています。「買い取られたのです」このことばの時制は非常に大切です。不定過去（アオリスト）という時制で書かれています。それはこういうことを表しています。「過去のあるときになされた一つの決定的行為を示し、現在もそれが継続していることを現している。」ギリシャ語の原文では、この「買い取られたのです」が 20 節の文頭に来ています。それは「買い取られた」が強調されているということです。ですからパウロは言うのです。コリントのクリスチャンたちに「あなたがたは買い取られたのです。主のものとなったのです。あなたがたは主の所有物なのです。」と。

皆さんご存じのように、もちろん買い取られたのは主イエス・キリストです。そしてこの真理は、今の私たちにも当てはまる真理です。私たちも主によって買い取られ、主のものとなりました。ですからパウロは 19 節で「あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。」「あなたがたのうちに聖霊が住まわれていることを知らないのですか。」と宣べているのです。パウロは「あなたがたは知っているでしょう。」と言っているのです。自分たちを買い取ってくださった主。使徒 20 : 28 b では「…神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を」と記されています。パウロはコリントの人々に対して、「あなたがたは、主イエス・キリストの尊い血という代価が支払われたことによって主に買い取られ、主のものとなったのです。」と教えています。皆さん、私たちも主によって買い取られました。では、買い取られる前の私たち罪人の姿とは、どのようなものだったのでしょうか？また買い取られた後の私たちは、どのようなものになったのでしょうか？この後みことばからそのことを確認していきたいと思います。

#### A. 買い取られる以前の私たちの姿

a. エペソ 2 : 1 - 3 をお読みします。「:1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であつて、:2 そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の權威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている靈に従つて、歩んでいました。:3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあつて、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」パウロはここで、私たちが買い取られる前の姿を三つ教えています。まず一つは、「自分の罪過と罪の中に死んでいた者」それは、罪の中に沈み、神から全く離れ、靈的に死んでいた者であつた、ということです。二つ目は、「空中の權威を持つ支配者に従っていた」この世の支配者であるサタンの支配の下にいた者であつた、とパウロは教えています。そして三つ目が「御怒りを受けるべき子らでした」かつては神の怒りであるさばきを受けて当然の者だったのです。そして永遠の死に至る者でした。パウロは、かつては靈的に死んでいた者であり、サタンに支配されていた者であり、神のさばきを受けて永遠の死に至る者であつた、と私たちに教えています。

b. また I ヨハネ 3 : 8 - 10 「:8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現れたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。:9 だれでも神から生まれた者は、罪を

犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。：10 そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行わない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。」ヨハネもこの中で「罪のうちに歩む者であった」と記しています。「罪のうちに歩む者」それは、罪を習慣的に犯し続けていた者であったということです。的外れな生き方をしていた者であったと。ヨハネは3：10で「悪魔の子ども」ということばを使っています。私たちは、かつては罪を習慣的に犯し続けていた者でした。c. パウロはローマ6章でかつての姿をこのように教えています。ローマ6：16「あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。」パウロは16節で、Iコリント6章で使っていたように、「あなたがたはこのことを知らないのですか。知っているでしょ。」と問いかけています。それはどういうことか？あなたがたが身をささげて、自分から積極的に望んで自分を差し出す——かつてはそのようにして罪の奴隷となって死に至る者であったとパウロは教えています。私たちは、かつては罪の奴隷としてサタンに従っていた者でした。

パウロもヨハネも、私たちが買い取られる前の姿を、霊的に死んでいた者、サタンに支配されていた者、神のさばきを受けて永遠の死に至る者、また罪を習慣的に犯し続けていた者、そして罪の奴隷としてサタンに従っていた者だったと教えています。そのような私たち罪人を主は代価を払って買い取られました。

## B. 買い取られた後の私たちの姿

買い取られた私たちの姿をみことばから見ていきたいと思えます。

a. ローマ6：16－18をお読みします。「：16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。：17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、：18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」

「罪から解放されて」それは、罪の束縛、罪の支配から解放されて、罪の奴隷ではなくなったということです。ではどのような奴隷になったのか？ここでは「義の奴隷となった」と書かれています。16節では「従順の奴隷」また22節では「神の奴隷」とも書かれています。私たちは買い取られて、義なる救い主イエス・キリストの奴隷となったのです。イエス・キリストに心から従う者となったのです。

ぜひ皆さんに知っておいてもらいたいことばがあります。それはこの「奴隷」ということばです。ギリシャ語では、“デューロス”ということばが使われています。この“デューロス”ということばは「奴隷」という意味しか持っていません。パウロが生きていた時代、この当時、社会には実際に奴隷という身分の者たちが存在していました。パウロはピレモンへの手紙の中で、オネシモという奴隷のことを書き記しています。この「奴隷」彼らは主人に対して全き服従の者です。また彼らは主人の財産であり、主人の所有物です。ですから多くの場合、その所有を示すために焼き印などでその印が付けられていたと言われています。主によって変えられた者たちは、罪の支配から解放されて、主イエス・キリストの奴隷となった者です。マタイは6：24 aで「だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。」と書いていますが、この直訳はこうです。「だれも、ふたりの主人の奴隷であることはできません。」奴隷はそのひとりの主人の所有物なので、ふたりの主人の奴隷であることはできない、その通りです。またパウロは自分の書いた手紙の冒頭でこう宣べています。ローマ1：1、ピリピ1：2、テトス1：1「私はキリストのしもべです」と。確か日本語では「しもべ」と書かれているのですが、この「しもべ」も、ギリシャ語の“デューロス”ということばが使われています。ですからパウロは言うのです。「私はキリストの奴隷だ」と。パウロだけではありません。ヤコブもペテロもユダもヨハネも「私は主イエス・キリストの奴隷である」と宣べています。

## ※主の奴隷として

皆さん、私たちも主イエス・キリストの奴隷となった者です。奴隷となった私たちの生き方はどうあるべきなのでしょう？先ほども言いましたが、奴隷は主人の所有物であり、その権威の支配と指示に完全に、無条件に服従する者です。私たちが主イエス・キリストの奴隷となったということは、主イエス・キリストに完全に無条件に服従する者になったということです。パウロは当時のクリスチャンとなった奴隷たちにこう宣べています。「奴隷たちよ。あなたがたはキリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。」皆さん、私たちの主人、私たちを買い取ってくださったその主人は愛に富み、情け深い方です。そしてその方は私たちの人生において、最善を成してくださる方であると、私たちはみことばから知っています。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」（ローマ 8：28）このような方が私たちの主人であるなら、私たちが従順にこの方に従って生きることこそ、私たちの最善の道ではないのでしょうか？「主は【主】の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」（1サムエル 15：22）「聞き従うこと」それは従順です。私たちは買い取られて、イエス・キリストの奴隷、神の奴隷となりました。私たちに主に対する従順さが求められているのではないのでしょうか？私たちは今、主イエス・キリストの奴隷です。

b. パウロが、買い取られた私たちのもう一つの姿を私たちに教えています。エペソ 5：1-2「:1 ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。:2 また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。」1節には「ですから愛されている子どもらしく、」と書かれています。私たちは神の子ども、光の子どもともされました。以前は、私たちは悪魔の子どもとして神に敵対していましたが、今は神の子どもとしての身分が与えられたのです。ヨハネはヨハネ 1：12で「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」と書き記しています。

## ※神の子どもとして

皆さん、私たちは神の子どもとしてどのように歩むべきなのでしょう？「愛されている子ども」とあります。その意味は、神が最高に愛している子どもであることを表しています。

そしてその子どもに対して教える一つ目のことは、「神にならう者になりなさい」です。「ならう者」とは、神の模範に従う者となるということです。ではどのような模範を行っているのでしょうか？エペソ 4：32を見てください。「お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。」私たちは主イエス・キリストによって赦されました。赦された者たちが集められたもの、それが教会です。教会の特徴は、互いに赦し合うことです。主イエス・キリストが私たちを赦してくださったように、私たちも主の模範にならって互いに赦し合いましょう。

二つ目の教えは5：2にある「愛のうちに歩みなさい」です。私たちクリスチャンの日々の生活において、口から出ることばも、またからだを通す行いもこの愛に根ざしたものであるべきだとみことばは言います。「そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」私たちも先に習いました。コロサイ 3：14です。「すべての上に、愛をつけなさい。」ウィリアム・バークレイという神学者はこのエペソ 5：1-2をこのように説明していました。「イエスのささげ物は、神への完全な服従と、人類への完全な愛の生涯であった。そしてこの服従も愛も十字架を受け入れるほどに絶対的な服従であり、限らない愛であった。パウロが述べている内容はこうである。『神にならう者になりなさい。そして、あなたがたが神にならば、イエスがささげた犠牲にならいたいのなら、イエスが全

人類を愛されたのと同じ犠牲的な愛をもって人々を愛し、神がなされたように愛をもって人々を赦すことによつてのみ、神にならうことができる。』パウロが訴えているのは、キリスト者が自分自身の生活の中で、神の愛と情深さと赦しと、憐れみとの態度を再現しなければならない。ということである。」

#### まとめ——主イエス・キリストの奴隷また神の子どもとして——

主イエス・キリストはご自分のいのちを、私たち罪人の罪を贖うために代価として払ってくださり、私たちを買い取ってくださいました。今私たちは主イエス・キリストの奴隷、また神の子どもとして生きる喜びが与えられています。そんな私たちはどのように生きるべきなのか？もう一度確認をして、きょうのメッセージを終わりたいと思います。

- ① 一つ目は、主の奴隷として、従順に主に従って歩む、ということです。
- ② 二つ目は、主は私たちを完全に赦してくださいました。主によつてそのように赦された者として互いに赦し合つて歩む、ということです。
- ③ 三つ目は、主の犠牲的な愛を受けた者として、すべてにおいて愛に根ざした歩みをしていきましょう。

これが買い取られた私たちの歩みとなるべきではないでしょうか？

あなたがたは代価を払つて買い取られたのです。